

令和4年度 島根県学力調査結果の概況について〈江津市〉

1. 小学校

【各教科調査結果】平均正答率(%)

- ・小5, 6国語・算数は島根県調査のため県平均値と比較
- ・小3, 4国語・算数, 小5, 6社会・理科は江津市独自実施(東京書籍標準学力調査)のため目標値と比較
- ＊目標値とは、東京書籍による学習指導要領に示された内容について正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したものです。

	小3		小4		小5				小6			
	国語	算数	国語	算数	国語	算数	社会	理科	国語	算数	社会	理科
江津市	69.9	70.8	67.6	63.4	70.3	55.1	64.2	62.6	72.0	66.0	66.6	65.8
目標値	72.2	68.9	69.0	66.3	69.8	60.0	64.6	64.5	69.6	68.8	64.7	66.5
島根県	-	-	-	-	68.4	55.6	-	-	68.0	61.2	-	-

国語	【小3, 4】目標値を下回り、特に「文章を書く」に課題がある。 【小5】県平均値をやや上回り概ね良好な状況である。 【小6】県平均値を大きく上回り概ね良好な状況である。
算数	【小3】目標値をやや上回り概ね良好な状況である。 【小4】目標値をやや下回り「少数」「わり算」に課題がある。 【小5】県平均とほぼ同程度である。「体積」「平均」に課題がある。 【小6】県平均を大きく上回り概ね良好な状況であるが「拡大図と縮図」「比と比の値」に課題がある。
社会	【小5】目標値とほぼ同程度ある。「日本の工業生産」に課題がある。 【小6】目標値を上回り概ね良好な状況であるが、領域「政治」に課題がある。
理科	【小5】目標値とほぼ同程度である。「魚のたんじょう」「天気の変化」に課題がある。 【小6】目標値とほぼ同程度である。「月と太陽」に課題がある。

【意識調査結果】

強み	・平日1時間以上勉強する児童の割合が高い。(3, 4, 5, 6年) ・「自分には、良いところがあると思う」と回答した児童の割合が高い。(3, 4, 6年) ・「学校が好きである」と回答した児童の割合が県を上回る。(5, 6年) ・「先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたり、やってきた宿題にコメントをしてくれたりしている」と回答した児童の割合が県を上回る。(5, 6年) ・「自分は友だち、先生、家の人から認められている」と思う児童の割合が高い。(3, 4年) ・前年度よりもICTを授業で使用したと回答した児童が大幅に増えた。
弱み	・今年度の授業でコンピュータ・タブレットなどのICTを活用したと回答した児童の割合が県を下回る。(5, 6年)

2. 中学校

【各教科調査結果】平均正答率(%)

- ・中1, 2国語・数学・英語は島根県調査のため県平均値と比較
- ・中1, 2社会・理科は江津市独自実施(東京書籍標準学力調査)のため目標値と比較
- ＊目標値とは、東京書籍による学習指導要領に示された内容について正答できることを期待した児童・生徒の割合を示したものです。

	中1					中2				
	国語	数学	英語	社会	理科	国語	数学	英語	社会	理科
江津市	60.5	52.0	50.7	59.5	55.9	65.9	46.8	44.9	46.6	46.5
目標値	55.8	53.4	54.0	60.3	56.0	64.3	53.3	54.2	50.2	47.8
島根県	58.5	52.5	51.6	-	-	65.3	45.9	49.4	-	-

国語	【中1】県平均値をやや上回り、概ね良好な状況である。 【中2】県平均値とほぼ同程度である。「文学的な文章の内容を読み取る」ことに課題がある。
数学	【中1、2】県平均値とほぼ同程度である。
社会	【中1】目標値とほぼ同程度である。 【中2】目標値をやや下回り、領域「地理」に課題がある。
理科	【中1、2】目標値とほぼ同程度で概ね良好な状況である。
英語	【中1】県平均値とほぼ同程度ある。「英作文」に課題がある。 【中2】県平均値を大きく下回り「長文の読み取り」「英作文」に課題がある。

【意識調査結果】

強み	・「『総合的な学習の時間』では集めた情報を課題に沿って整理して考え、発表する活動に取り組んでいる」「話し合う活動を通じて自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と回答した生徒の割合が県を上回る。 ・「学校図書館を使った授業は、ほかの授業を行うときにも役立っている」と回答した生徒の割合が県を上回る。 ・「先生は家庭学習の仕方についてアドバイスしたりやってきた宿題にコメントをしてくれたりしてくれる」と回答した生徒の割合が県を上回る。 ・前年度よりも ICT を授業で使用したと回答した生徒が大幅に増えた。
弱み	・今年度の授業でコンピュータ・タブレットなどの ICT を活用したと回答した生徒の割合が県を下回る。

3. 今後の対応

◇調査結果の活用

- ・「各教科調査結果」「生活・学習に関する意識調査」の結果をもとに、今年度の「学力育成推進プラン」等の成果及び課題を把握し、取組改善を図る。併せて次年度の学力育成担当者、担任、教科担当者へ結果及び対策を引継げる体制を整備する。
- ・個々の児童生徒の学習内容定着状況を確認し、組織的な取組のもと、補充学習や発展学習等の指導を充実させる。

◇授業の質の向上

- ・授業では系統性を含め、育成するべき力が学習を通じて適切に育まれているのか確認する。特に「思考力・判断力・表現力」を育成する取り組みを充実させるために次のような学習場면을効果的に取り入れる。（情報と自分の考えを結び付けながら根拠をもって説明する、複数の情報を整理・分析し自分の考えを形成・表現につなげる学習活動を設定する など）

◇家庭学習の充実

- ・子ども達が自主的に取り組むような課題の工夫（授業と関連する内容やタブレットの活用）をする。
- ・学校と家庭と連携を大切にし、家庭学習の意義を理解しながら習慣化を図る。

◇学校訪問の実施

- ・指導主事による県学力調査結果をふまえた指導改善に関わる学校訪問を実施する。